

平成 28 年度 第 2 回園芸研究所主要課題現地検討会（ナシ「恵水」）の開催

10月20日（木）に園芸研究所において、ナシの主要課題現地検討会を開催しました。当日は生産者（茨城県梨組合連合会会員）54名、普及指導員・行政等関係機関58名の計112名の出席があり、ナシ新品種「恵水」の栽培及び貯蔵技術について研究の進捗状況の紹介と意見交換を行いました。出席者から多くの意見が寄せられ、今後の試験研究推進と生産及び販売における課題の解決に向け有意義な検討会になりました。

1 試験研究の取り組み・進捗状況の紹介

現在、研究課題として取り組んでいる高品質多収穫生産技術の開発、補植技術の開発、樹体ジョイント仕立ての適応性と大苗育成の検討、貯蔵技術の確立について、研究進捗状況や期待される成果を紹介しました。

2 ほ場検討

「恵水」の高品質多収穫生産技術の開発については、多収でも品質を低下させない生育条件の検討を行っている試験樹の側枝配置や栽培上の留意点についての意見交換を、補植技術の開発については、熱水処理と根底制限による幼木生育促進状況及び1株3本植えの新仕立て方法の紹介と、温水点滴処理機の展示、紹介を行いました。ジョイント仕立てについては、接木したジョイント箇所の様子をみながら慣行仕立てとの比較について意見交換を行いました。ジョイント用の大苗育成ほ場においては、大苗育成に適した新梢管理やかん水方法などについて紹介しました。

3 「恵水」と晩生品種の食べ比べ

短期冷蔵貯蔵の「恵水」と晩生品種の「新高」、「にっこり」を出席者に食べ比べていただきアンケートを行ったところ、「恵水」の食味は良好（あるいはやや良好）との評価は96%、一番気に入った品種は「恵水」との回答は79%でした。また、「恵水」の外観が良好（あるいはやや良好）の評価は81%でした。

4 総合検討・意見交換

- ・専技を座長に「恵水」の推進、ブランド化についての意見交換が行われました。「恵水」栽培農家からは本年度初出荷を通じて、「つくりやすい品種であるが、大玉高品質には摘果技術が重要であり、今後の課題としては面積の増大と果肉障害の対策が必要。ナシ安値時期の収穫であり貯蔵による付加価値を期待している、出荷データに基づいた商品づくりが重要」との意見や要望がありました。
- ・生産者とJA担当者からは本年度の初出荷にあたり、出荷・販売に対する対応（問い合わせ）窓口を整備すべきであった、供給量が当初の見込みよりも少なかったため需要に対して十分応えることができなかった、など次年度への課題が提案されました。

今回の現地検討会の満足度アンケート結果では、参考になったとの回答は93%であり、テーマ別では、「恵水」の高品質多収穫栽培、補植と幼木生育促進技術、晩生品種との食べ比べに高い関心が寄せられました。当日は、NHK水戸放送局（佐伯記者）の撮影と取材が入り対応しました。



ほ場検討（「恵水」高品質多収穫試験）



晩生品種との食べ比べ（試食）